

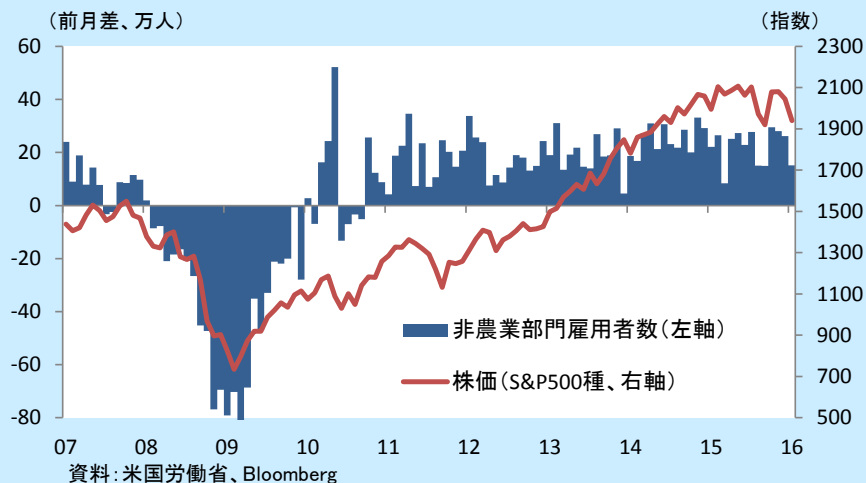
## 米国：雇用統計（2016年1月）

## —金融市場の不安定化が雇用者数増の抑制要因に—

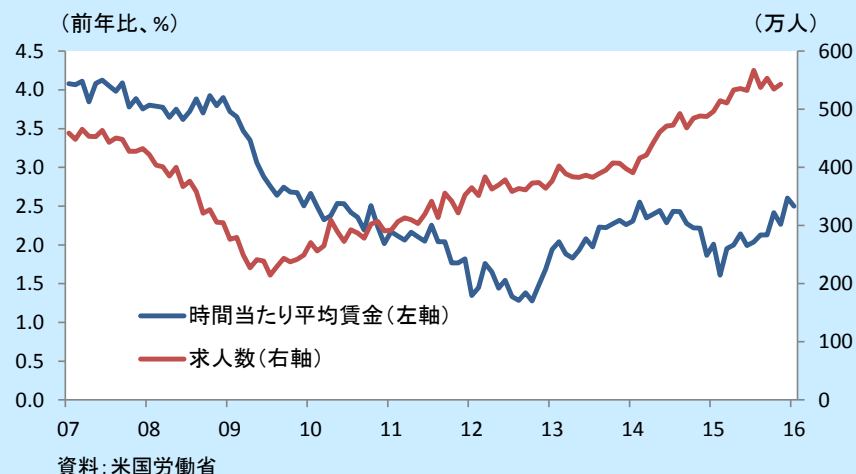
## MRI Daily Economic Points

February 8, 2016

図表1 非農業部門雇用者数および株価



図表2 時間当たり平均賃金および求人数



## 評価ポイント

## 今回の結果

- 16年1月の非農業部門雇用者数は、前月差+15.1万人増と、前月(同+26.2万人増)から増加幅が大きく減少した。年初来の金融市場の不安定化や株価の下落を受け、企業の採用姿勢が慎重化した可能性が高い。
- 内訳をみると、内需の堅調さを反映して、小売(同+5.8万人)、レジャー(同+4.4万人)で増加。ドル高と新興国経済の減速により伸びが鈍化していた製造業も同+2.9万人と、2014年11月以来の増加幅となった。一方、シェール関連産業を含む鉱業・林業(同▲0.7万人)は16ヶ月連続で減少。前月大幅に増加した人材派遣業(同▲2.5万人)も減少に転じた。
- 1月の失業率は4.9%と前月(5.0%)から小幅低下。2008年8月以来の水準まで改善した。労働参加率は62.7%と前月(62.6)から小幅上昇。金融危機以降、趨勢的に低下が続いていたが、ここ数か月は下げ止まりつつある。
- 時間当たり平均賃金は前年比+2.5%と前月(同+2.6%)から伸びが小幅低下。ただし、基調としては15年3月以降、上昇傾向が維持されている。

## 基調判断と今後の流れ

- 米国雇用市場は、1月は金融市場の不安定化や株価の下落を背景に企業の採用姿勢が慎重したなどから、雇用者数の増加幅が減少。企業の雇用スタンスを示すISM雇用指数も1月は製造業・非製造業ともに大きく低下した。
- ただし、非農業部門雇用者数は直近3ヶ月で月平均23.1万人増と、20万人を上回るペースで増加。改善基調は維持されている。内需の堅調さを背景に求人数は高い水準にあり、企業の採用意欲は根強い。先行きも、非製造業を中心に雇用は緩やかながらも改善基調は維持すると見込む。
- 先行きのリスクとして、金融市場の不安定化が長期化した場合には、企業の採用姿勢の慎重化が強まり、雇用環境の改善ペースが鈍化することが考えられる。また、新興国経済の一段の下振れにより、製造業の雇用情勢の悪化が非製造業にも波及する可能性には注意が必要である。